

**現**在、日本では適切な管理がされていない空き家などが増加し、周辺環境への悪影響や地域の活性化の阻害につながる可能性が危惧されています。

村では、空き家などの適切な管理に関して条例を施行するなど、対策に取り組んでいます。そのような中で、地域おこし協力隊の麻生さんは空き家の利活用や村の資源を最大限に活用して村人口の増加を目指した活動を行っています。

## 空き家活用

「私自身、村に移住するための空き家を購入するのにとても時間がかかりました。また、この活動をしていると住民の方から空き家や土地を処分したい、活用方法がわからないなどの相談をいただくのですが、住民の方が負担にならない方法を自身の経験を活かし探りながら、村と協議しつつ空き家として売れる方法をアドバイスしています。それぞれ個人にあった解決法を探り出し、解決へ導くには時間と労力がかかります。

しかし、困っている方や悩んでいる方へ国や自治体の制度の紹介やアドバイスをすることで、抱えている空き家の悩みを少しでも解消できたら嬉しいです。また、そこから最終的には売りに出せる物件を増やし、購入してくれる移住者を呼び込めたらいいなと考えています。」

5月から完全予約制で空き家相談会を実施しています。詳細は毎月の広報誌（【お知らせ】19ページ）にて掲載しておりますので、ご確認ください。

空き家について気になることや相談したいことがあればぜひご参加ください。



## 空き家もリフォームして村生活

麻生さんも村で空き家を購入して内装もリフォーム！快適な村での生活を楽しんでいるそうです。



## 地域おこし協力隊として成し遂げたい目標

「活動していく中で、住民の方と交流する機会は多くあります。その中で多く耳にするのが、“雇用がない、子どもの数が少ない、だから村から出て行ってしまう人が多い”です。村には素晴らしい伝統文化と自然が溢れているが、過疎化が進んでいるこの現状を何とか打破したい。私の目標は、日本の全人口が減少していく中、村の過疎化防止で村民を少しでも増やすことです。細川紙などを有効利用するなど観光資源を豊かにしつつ、空き家・空地・公共施設等を利用した事業を行うことで人口が増え、財源が潤う。そこから行政サービス向上に繋がれば良いなと考えています。」と麻生さんは話します。

麻生さんへのインタビューの中で「こんなにも自然が豊かで、住民も心温かな人がたくさんいるのに“もったいない”」何度も語っていました。

麻生さんは、可能性を秘めたこの東秩父村で、その可能性を最大限に広げ活用する活動を行っています。それは村への愛ある活動といっても過言ではないでしょう。そんな地域おこし協力隊麻生隊員の今後の活躍にご期待ください。